

今後の枚方市の支援教育に係る進捗状況について

学校教育部 教育支援室 児童生徒支援課

1. 政策等の背景・目的及び効果

今後の枚方市の支援教育については、令和4年（2022年）8月26日及び9月14日の教育子育て委員協議会でのご協議をはじめとした市議会からのご意見、保護者からのご要望等を踏まえ、9月22日に教育委員会において、「今後の枚方市の支援教育について」決定したところです。
このことについて改めて、現在の次年度の支援学級設置の状況や今後の取り組みについて報告するものです。

2. 内容

(1) 支援学級・支援学級在籍児童・生徒数について

【令和5年（2023年）1月31日現在】

	年度	支援学級数	支援学級在籍 児童・生徒数	通級指導教室数	通級指導教室利用 児童・生徒数
小学校	令和4年度	281	1692	13	204
	令和4年7月の 令和5年度見込み	237 (-44学級)	1444 (-248人)	61 (+48教室)	702 (+498)
	令和5年度	290 (+9学級)	1743 (+51人)	22 (+9教室)	288 (+84人)
中学校	令和4年度	97	543	2	10
	令和4年7月の 令和5年度見込み	90 (-7学級)	417 (-126人)	22 (+20教室)	241 (+231人)
	令和5年度	95 (-2学級)	515 (-28人)	21 (+19教室)	133 (+123人)

(2) 特別支援教育支援員の確保に向けた取り組みについて

- ・職種/募集人数:特別支援教育支援員/29名程度
- ・11月広報にて、特別支援教育支援員29名の募集を行い、8名を採用予定。
- ・令和5年(2023年)1月広報にて再募集を行い、5名を採用予定。
- ・さらに、2月に再募集を行い、採用試験を行う予定です。
- ・通年雇用の「資格有り」、「資格なし」の2区分及び、短期雇用の「資格有り」、「資格なし」の2区分、合計4区分に応募要件を整理し、募集を行っています。
- ・雇用時期を前倒しし、3月より研修実施予定。
- ・研修内容については、特別支援教育支援員の業務内容・役割、主な障害の特性の理解と支援、学校・学級での支援の仕方等。

(3) 支援教育に係る審議会等について

<支援教育充実審議会（仮称）の検討状況、審議内容>

- ・支援教育充実審議会（仮称）の委員に、医学、臨床心理、教育学、福祉、法律学等の委員を選定し、専門的見地からご意見を伺うとともに、保護者については、4名程度を予定。
- ・審議内容としては、これまでの本市の支援教育の現状（良かった点等を含め）及び課題の総括を踏まえ、就学に関わる手続きについて、支援学級の対象となる児童・生徒について、特別な教育的な配慮を要する児童生徒に対応する柔軟で多様な学びの場について等、幅広くご意見を頂戴する予定。
- ・審議事項によっては、結論が出た時点で予算等の検討を行います。

3. 今後の予定

- 令和5年（2023年）
- 3月 通級指導教室 環境整備事業の実施
教育支援ソフトの導入調整
（仮称）枚方市支援教育充実審議会設置に係る条例改正案提出
特別支援教育支援員研修
 - 4月 全中学校と小学校のモデル校に自校通級指導教室を設置
特別支援教育支援員の配置及び研修
（仮称）枚方市支援教育充実審議会 審議開始

4. 総合計画等における根拠・位置付け

- 総合計画 基本目標 一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
- 施策目標 1 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち



5. 関係法令・条例等

- 学校教育法
- 学習指導要領
- 義務標準法
- 障害者の権利に関する条約

6. 事業費・財源及びコスト

《事業費》

令和5年度当初予算（予定）

- ・通級指導教室教員（通年任用） 29名 179,227千円
（市費で教員配置を行う最大値。令和4年12月の学級等設置数の確定を踏まえて、
できる限り、府費による配置を求めていく。）
- ・特別支援教育支援員（通年任用） 29名 75,147千円
- ・審議会委員（校長、教員は含まない） 10名 950千円

令和4年度補正予算

- ・支援教育の環境整備 25,200千円
 - ①支援教室の改修経費 6,300千円
パーテーション工事、空調設置、電源工事等
 - ②教育支援ソフトの導入経費（債務負担行為の設定） 18,900千円

《財源》 一般財源（特別支援教育支援員については、地方交付税措置あり）